

第57回Kozoom28 「桃の節句(雛まつり)から」

清水健二

3月3日は「雛まつり」だった。中国から伝わった五節句の一つで「上巳(じょうし)」の節句に由来し、災いやけがれを追い払うため、水で体を清め 宴を催す習わしから発展したようである。日本では平安時代に「流し雛」として、和紙や草木で作った人形に自分の厄災を移し、川や海に流していたという。初期には素朴な人形(ひとがた)だったが、平安時代に貴族の子女らの人形遊びに、高貴な方々をモデルに人形を作り、女の子の憧れの対象に各階層の人物像を揃えだしたようである。

江戸時代になって人形作りが精巧になって、美しい容姿の人物像に発展したと言えよう。昔は幼児の死亡率が高く、女の子の健やかな成長と健康を願う「雛まつり」として、庶民に普及していくと共に、「桃の節句」として春の訪れを祝う行事に発展していったという。華やかさを求めて様々な人形がひな壇に並び、家族全体が楽しみ、食べる物も「ちらし寿司」や「はまぐり」のお吸い物、「菱餅」、「ひなあられ」など、和菓子の「桜餅」それに最近では「いちごケーキ」等が好まれているという。

遠い昔から継承されてきた「雛まつり」は、都会のマンションに住む若い夫婦には関心が無いだろうと思っていたら、意外にも我が娘ととともに雛人形を飾ったり、食べ物を用意して楽しんでいる家庭が9割以上もあるということを知った。確かにスーパーなどで関連商品を見かけることで、親子の心の絆は時代が変わっても、心根は変わることがないものだと納得した。初節句には雛人形を購入したと回答した人は8割もあり、譲り受けて飾る家庭を含めて9割というから驚く。近年は新規に購入するタイプは、住まいに合わせコンパクトになって、竹材や陶磁器の類も多くなっているようである。



近年の雛人形1



近年の雛人形2

私は何年も前から地方の田舎町へ出かけ、今も伝統的に「雛まつり」を毎年「町おこし」のために、来訪者を呼び込んでいる処へ、写真仲間とよく撮影に行き楽しんできたので、その中の3箇所を紹介したいと思う。

①大阪府富田林市の寺内町

重要伝統的建造物群保存地区で、町の中心に興正寺があって寺院の周囲に町家が建てられ、町家の外側を堀と土塁で囲まれて、町全体が境内である所から寺内町と言われている。多くの信徒が集まり住み着いて、商いがしやすくなって、人家が増えていったのである。そんな町は生活も豊かになり、様々な年間行事の中に雛まつりも一つの祭事になっている。



富田林駅前の雛人形



富田林寺内町の雛飾り



富田林市寺内町雛飾り

②奈良県高取町土佐街道

古都飛鳥から東南に向かって山を登ると、山城として規模も大きく日本一といわれる高取城がある。城は失われているが、山道に沿って累々と石垣が繋がり、秋の紅葉時は絶景を楽しめ、私は四季を通じよく登山してきた。近鉄吉野線の壺阪山駅周辺の町が土佐街道にあたり、南北朝から戦国時代を経て近代に至るまで長い歴史を有する城下町だが、薬や酒屋等の存在する商家の並ぶ街道である。雛まつりの頃には、店頭で雛壇を設けて道行く人を楽しませてくれる。一方、人形浄瑠璃の「壺



秋の高取城址(私のスケッチ)



高取町民家の雛壇



壺阪寺の大雛曼荼羅

坂霊験記」に登場する、盲目の沢市とお里の物語でもよく知られている壺阪寺で展示される雛人形はその数3000体に及び「大雛曼荼羅」が公開されていてまさに圧巻である。

③滋賀県日野町

近江商人の精神、「売り手よし・買い手よし・世間よし」の「三方よし」で富豪を極めた商人の屋敷が



日野町商家の座敷



日野町の家並み



日野町商家の裏庭から



日野町棧敷窓から

残っている。多くは町家などが軒を並べていて、特徴は各家々に棧敷窓や、格子越しに緋毛氈に彩られた雛飾りが眺められる。江戸時代から明治時代の素朴な人形が民家や商家の蔵に眠っていた古いもの、新しいもの等が並び観賞できる。

上記三箇所は街並は異なっているものの共通しているところは、古い日本家屋の立ち並ぶ町家の戸障子越しや、門構えのある広い屋敷の奥座敷などに代々自慢の雛人形を飾っていて、娘の生育や家内安全を願いながら、一家団らんで祝宴をあげていた雰囲気を感じ取れる。

私は建築に関心があって、特に日本建築の構造や構成は、日本の四季に適した生活環境に適応した住居造りになっていることである。例えば日本の夏は湿度が高く暑さに悩まされるだけに、通風の良い部屋配置をして調湿機能を果たしているし、部屋と庭との間に縁側を設けゆとりの空間を取り、夏・冬の気温変化を和らげる工夫もされている。障子やふすまはスライド式で、自由に部屋の間取りを変えることができるし、土間を広くして活動しやすくしたりしている。いうまでもなく建築素材は自然のもので、木材、土、和紙、漆喰などが使用され、その地の自然環境に即した家づくりがされている。

日本建築ついでの特徴を述べると枚挙に暇がない。何より訪問客を迎え入れる奥座敷は、一段高く床の間を設けて、花や掛け軸、ツボ等の美術品を飾り、来客をもてなす工夫も整えたそんな空間に、雛人形の飾りは一段と日本文化の美を味わえることができるのである。

私は他にも各地での雛まつりを楽しみに訪ね歩いてきたものだが、各地には今も残っている人々の生活を見聞したい思いは今も失うことなく、今年も桃の節句を無事迎えることのできたことを感謝している。

令和7年3月 記